

## 令和元年度 勝山高校生 市長と語る会 議事録

【目的】 ・勝山市内の高校生と市長とが、世代や立場を越えて語り合う場を設ける。  
・次代を担う高校生と市長とが語り合うことを通して、ふるさとに誇りを持ち、未来に目を向けて学び続ける人材の育成を図る。

【日時】 令和元年8月9日（金）10：00～11：30

【場所】 勝山市役所3階 第1会議室

【参加者】 勝山高等学校 第3学年生徒9名、引率教諭

【テーマ】 勝山人～かっちゃん創生プラン～

### <市長>

千葉大学の倉坂先生と出会う話をしたときに、「全国各地の高校生と話をして、また、話をするだけではなくて、いろんな取組をしていきたい。若い人たちに次の時代を担っていく気構えと手立てというものを見せていきたい。そのためには高校生のみなさんの話を十分聞いて、どのように構築できるかというようなフォーラムをしましょう。」という話があった。校長先生はご存じて倉坂先生とも話をなされたと思うが、今年の12月に勝山未来ワークショップをやり、今日のようにみなさんから話をしてもらい、わたしも考えを述べる、その中でみなさん方に積極的にかかわってもらいたい。ただ、意見を言うだけではなくて、どういうふうにしたらアプローチできるかというところまで考えるような取組をしようという計画を練っており、打ち合わせをしているところである。ご期待いただきたい。そういうこともふまえて、今日は、様々な話が出てくることを楽しみにしている。

### 【提案1：鮎釣りの聖地 勝山 3年 村上雄哉 荒木裕二】

昨年、この市長と語る会で鮎釣りについて話した先輩がいる。その先輩は、鮎を釣った後のことについて話した。僕は鮎が釣れる前の段階について話す。勝山では釣った後のことは十分整備されていて、釣った鮎を食べたり料亭とかに卸したり、勝山の漁協も高校生以下の子どもや女性の釣り無料だったり川の整備だったり、いろんなことをしてくれている。

釣りの環境は整っているが、鮎はだんだん釣れなくなってきている。その原因を調べてみた。まず、天然遡上の稚魚が減っているというのが一番の原因なのではないかと考えた。稚魚の放流は行っているが、それだけだと未来へつながらず、その場しのぎの対策でしかない。(市長：その数字は間違いはないの?) これは新聞の記事のものである。

ほかの川の対策を調べてみた。漁場の整備だったり鮎の産卵場の整備だったり、稚魚の放流をあえてやめるだったり、発電所からの放水量の安定だったりがあった。この中で、勝山ができそうなものを選ぶと、漁場の整備。鮎の産卵場は勝山の範囲じゃなくほかの漁協の管轄なので、勝山だけではどうにもならない。放流をやめることもできる。(市長：稚魚の放流をやめる?) はい。

漁場を整備する理由は、鮎が昇りやすくするためである。写真は見づらいが、砂で埋まっていて、水が流れていない。ここを整備すると鮎がここを登って遡上していく。ここが埋まってしまうと、水も流れないし鮎も登れないというので、砂を掘り返して水が通るようにしたい。(市長：それはちなみにどこの川?) これはネットできがしてきたもので、勝山以外の場所である。

稚魚の放流をやめるということについては、河口のほうで産卵して小さい頃は海で過ごす。勝山では、琵琶湖産の鮎を放流する。そうすると海水への耐性がなかったりして生まれた稚魚が河口へ行って死んでしまう。すると、もうのぼってこないし、勝山の鮎の海水への耐性もだんだん減ってきて、いいことはあまりないのではないかなあとと思うので、稚魚の放流をやめることを提案する。

発電所からの放水量を安定させることについて。鮎が産卵する場所は結構浅瀬である。昼と夜の河川の水位が変わると浅瀬が干上がり鮎が産卵できない。それを防ぐために放水量の安定を提案する。

次に、鮎釣りのおかげでどれくらい勝山にお金が落ちるかというのを調べてみた。釣り1回で結構なお金を使っている。人がいっぱい来てくれるようになれば、さらにいっぱいお金を落としてくれるのではないかなあとと思う。

次のスライドは学校用のものである。(市長：せっかくだから紹介して。)1時間幸せになりたかったら酒を飲みなさい。3日間幸せでいたいなら結婚しなさい。永遠に幸せになりたかったら、釣りを覚えなさい。(市長：村上君の考えではないの?)はい。これは、ネットを調べたらおもしろいのが出てきたので紹介した。

今年はもう終わったが来年もあるので紹介させてもらいたい。勝山では釣り教室というのを毎年行っている。(市長：そうだね。漁協が主催となって行っているね。)そこでインストラクターとして参加している。どなたかよかったら参加してほしい。(市長：そういう取組をして未来の釣り人を創りたいと漁協の人は思っている。村上君以外にもいるのか?)高校生ではない。学校でも紹介したが、今年はこの日大雨で増水して行えなかった。

#### ○市長より

すごく詳しいし、理論的に通っている。何か勉強しているのか?すごく興味があるから?(村上さん：はい。すごく興味があったり自分がたくさん釣りたいから。)すごく興味があったり趣味として釣りをやったりしているのは子どもの時代に何かきっかけがあったのか?親が連れて行ってくれたからか?(村上さん：自分が好きだったから)釣りが好きな子供さんというのは友達がいるからということもあるようだけど、一緒に行く友だちはいるの?(村上さん：高校生ではないなくて、まわりはおじさんばかり。)自分の好きなことを人生の趣味として、やりたいことを最大限生かして進んでいくということはすごく大切なこと。それによって人生は拓けることがある。あなた自身が釣りで町おこしをしてほしい。10年たったら28歳だ。10年なんてあっという間にくる。28歳から5、6年は人生で一番やりたいことがやれる時だから、今からこういう希望を持ってやっていくといい。いくらでも漁協の人たちを紹介する。漁協も若い人たちをどうやって育てるかすごく悩んでいる。村上君みたいに意欲のある人だと、漁協のほうから「主になってやってくれ」という話があると思う。提案されたことは漁協のほうにも伝える。大人は既成概念にとらわれているからなかなか前向きには進んでいかないかもしれない。そういうときには今の情熱をずっと持ち続けて、「必ず俺が実現してやる」という思いを持ち続けてほしい。

#### 【提案2：勝山左義長祭りを利用して 3年 野尻愛佳】

本来なら相方がいるのだが、今日は都合がつかず、わたしひとりで提案をする。

わたしたちは勝山左義長祭りを利用して新しい企画を提案する。

わたしたちは1年時に勝山探索、2年時に北海道の修学旅行を通しての企画、先輩方の勝山創生案を聞

いたりして、勝山が抱える課題をまとめてみた。それが次の4つである。「高齢化」「人口の減少」「店の経営の継続がたいへん」「観光客の集まる場所が限定」。この中の「店の経営の継続がたいへん」「観光客の集まる場所が限定」という課題を解消するため、そして、さらに観光客が増え、プラス地元の人が増えるような企画を考えた。

観光客が勝山を訪れるときと言えば、GWの恐竜博物館への車の渋滞やスキーができる2月ごろをイメージするかもしれないが、勝山左義長祭りでは2日間という短期間で、地元の人から他県、そして他国の人までたくさんの方が訪れ、そして、若者から年配の方々までいろいろな年代層の方々が楽しめる行事である。そこで、新勝山左義長祭りツアーを提案する。「新」とあるが、もともと勝山左義長ツアーというのは昨年行われていたそう。2日間泊りがけで、左義長の実演や体験が行われた。そこで去年のツアーをもとに、2日間のスケジュールを新しく作ってみた。まず1日目が勝山観光。3コースに分ける。一つ目が恐竜博物館からゆめおーれのコース。2つ目がスキー1日体験のコース。3つ目が平泉寺、越前大仏、勝山城のコース。この3つのコースに分けることで、次の年も来たいと思えるように工夫する。1, 3コースは昼食のお弁当を配布する。これはアサヒフードのおにぎりがよいと思う。(市長：参加する人が、希望するコースを一つ選ぶということだね。) はい。夜が勝山ニューホテルでご飯。そのまま宿泊。そして、2のコースは、昼ご飯はばらばら。夜はホテルハーベストでご飯、そして宿泊。そして、2日目は左義長祭り散策。まず、朝、左義長講演会というものを市民会館で聞く。ここで、左義長の歴史や特色を動画や写真で紹介する。次に櫓巡り。本町以外の全部の櫓はバスで移動する。全部の櫓を移動することで左義長祭りが勝山全体で行われていることを知ってもらえる。そして、最終的に本町の櫓を見て回ってもらう。最後にアンケートを取って夕方勝山駅で解散するという計画を立てた。(市長：2日間で終わるの?) はい。アンケートにこの4つのことを入れて、次の年の企画に生かしてほしい。

次に詳細である。料金は前払い、勝山の方はツアー会社に電話することや市役所に直接申し込むことを可能にする。コース希望は第2希望まで取る。人数が少ないとだめなので第2希望まで取って人数が少なければ第2希望へ行ってもらうことにするとよい。ミニお土産も用意する。これは3コース共通して、はや川・丸屋・大和田のお菓子の詰め合わせにするとよい。この3つのお菓子を渡すことで、勝山にもこういったお菓子屋さんがあることを知らせることになる。そして、各コース15人以上30人弱で構成したほうがよいと思う。

続いて、PR方法である。まず、新聞やポスターなどの広告である。これらはネットを使わないお年寄りの方々に利点がある。次に福井県や勝山市のHPに新聞やポスターと同じものを掲載してもらうという方法である。次に、動画投稿サイトのYouTubeでPRするという方法である。紙媒体の広告ではPRできる範囲は限られており、多くの方々に見ていただくことはできない。だから、YouTubeを利用するとよいと思う。次に、YouTubeでの詳しいPR方法を説明する。こちらは勝山のことを発信しているYouTubeチャンネルである。このチャンネルには一部ガイドに勝山の観光をPRしている動画があるので紹介する。この動画は「人の目に留まりにくい」「動画の表紙がおもしろそうじゃない」「動画のタイトルが検索にひっかかりにくい」ことが問題だと思う。YouTubeでPRするのならば、**見やすい**カラーリングにする、動画の時間は10分ほどでまとめることを行うとよいと思う。これらのことをふまえて、例を作ってみた。チャンネルイメージはしっかり県名や市名を入れること、「観光」という単語を入れることで検索にひっきりやすくなり、多くの人に見てもらうことになる。#ハッシュタグをつけることで、多くの人に見てもらうことができることと英語表記にすることで外国の方々にも見やすくなる。もしツア

ーをするのなら、このようなチャンネルを作ってほしい。わたしたちもこのスライドを作り始めてから検討会で大人の方に見てもらうまで、去年のツアーのことを全く知らなかった。若者に知ってもらうには、このようなネットでの配信が大切になってくると思う。

次にツアーをすることによる効果である。まず、ツアーにより、ツアー会社やスキージャンなどの企業、和菓子屋さんの各店の売上げが上がるのではないかと、2日間の観光客の数が増えるのではないかと、HPを見る人が増え、勝山を知ってもらえるのではないかと、また、左義長のよさを広めるられ、さらに地元の人が左義長のよさを再確認できるのではないかと、えち鉄に乗る人が増えるのではないかと、思う。

これらのイベントが開催されるためには、勝山左義長祭りの継続が大切である。今回は、ツアーの値段などは各企業の検討があるためくわしくは考えなかった。また、このイベントをするにあたって、多くの大人の方々に運営していただく形になるが、その運営を大人たちばかりに任せてはいけないと思う。学生であるわたしたちもボランティアをするべきだ。そこで、わたしたちができそうなボランティアを考えた。一つ目は人事誘導、バスに乗る際の誘導、2つ目が左義長講演会の準備・後片付け。このようなボランティアをすることで、若者であるわたしたち自身も勝山や左義長について知識を増やせる機会になると思う。若者であるわたしたちは左義長があっても祭りの屋台を楽しむだけになってしまうと思うので、こういう機会を作って左義長についての知識を増やすことが大切である。そして、このイベントを様々な年代層の方が運営することによって、少しでも勝山を全体的に発信できるとよいと思う。

#### ○市長より

感心した。すごい。何がすごいかというと、ただ希望とかやってほしいことを言うのではなくて、具体的に自分たちがどんな役割を果たせるかということを一っしょに考えていることがすばらしい。まちづくり会社という会社があって、これは勝山市と商工会議所が出資して作った会社で、何をするかというと、勝山の観光をどうしたらいいか考えるだけでなく、具体的にイベントを行ったり、観光客を呼んできどどのように楽しんでもらうか考える、つまり、今日、野尻さんが発表したことをそのまま具体化している会社である。そこには有能なスタッフがいるからその人と一っしょに聞いてもらって、やってほしいと思う。勉強が忙しいかもしれないが、ここまでやったのだから、あなたもお手伝いをしてほしい。お手伝いというよりも自分がある部分を担ってこのようなプロジェクトを引っ張っていくような位置づけを、まちづくり会社に依頼するから、その中で頑張ってもらいたい。自分の考えていたことが少しでも具体化できたら喜びになり、その喜びがまた次のアイデアを生み出していく、そういう相乗効果が生まれてくる。将来何になりたいの？（野尻さん：まだ決まっていません。）決まっていないのであれば、勝山はこれから観光というものをもっともっと産業化したい。これで収益が上がるような事業のできる人が勝山にたくさん生まれて、人々が幸せになると同時に勝山市も発展する、そういうことを考えている。これは商工会議所も同じだ。その一環として、恐竜博物館の前にジオターミナルというショップができた。これはその第2弾である。第1弾は、花月楼で、改築して、人々が楽しめるようにした。その運営をまちづくり会社がやっている。ジオターミナルもまちづくり会社が商品の仕入れを考えて、どのようなときにどのようなものを売るかということも考えている。すごい収入がある。その第3段目として、道の駅ができる。道の駅の運営もまちづくり会社にしてもらうことになるから、ぜひとも一っしょになってやってほしい。まちづくり会社も収益を獲得して大きくしていくつもりだから、若い人があこがれて入れるようなそういう会社になりたい。興味とか趣味が高じてほんとにその道に入りたくて自分自身の人生を歩んで

ほしい。

【提案3】 <自分たちの力で変える！～勝山をよりよい地域にするために～：木下麻梨>

わたしは、今回、主に勝山市と養父市の人口比較、また、比較するだけでなく、勝山市の地域創生のために行えることを調べて考えてみた。

まず、どうして養父市と比較して考えるかについて。その主な理由は、養父市は勝山市と人口がほぼ同じくらいである。人口が同じなら、養父市が養父市の人口で行えていることが勝山市でも行えるのではないかと思ったからである。現在の勝山市の人口は22969人、養父市は22910人で、勝山市のほうが少し多い。しかし、今の養父市は全国でも中山間地農業の改革拠点地として注目されている。養父市は国家戦略特区に入っているからである。国家戦略特区とは、世界で一番ビジネスをしやすい環境を作ることを目指す地域のことである。現在は約10区域が指定されている。そこに入ることにより、民間企業との連帯による農業の構造改革や農産物・食品の高付加価値化等の革新的農業の実践で輸出も可能となる新たな農業モデル構築が可能となる。養父市が国家戦略特区には入れた理由として、若者から高齢者までみんなが働ける場所を増やしたいという市長や市民の強い思いが伝わり、全国から実現性が高いと思われたからである。国、自治体、民間事業者の三者で構成される国家戦略特別区域会議を経て、国家戦略特別区域諮問会議で決定される。養父市が国家戦略特区に入ったことによる実績と経過を調べてみた。大きく分けて3つの経過実績があった。一つ目は営農が可能になった。二つ目は生きがいを得る地域社会の活性化に貢献するために仕事をする高齢者のためにシルバー人材についての制度を改め経済活動に参加しやすい環境づくりを行った。三つ目は養蚕住宅を旅館として再生した。

国家戦略特区に入る前の養父市と同じ状況であると思われる勝山市は、まず、国家戦略特区に入ることが求められる。そのためには、市民ひとりひとりが勝山市を活性化させたいという強い気持ちを持つことと市長さんを中心として市全体が意欲を見せることが大切である。しかし、思っているだけでは絶対に国家戦略特区に入ることはできない。だから、勝山市は具体的に何をすべきかを考えた。

まず始めの段階として、市が一致団結することが必要である。そのため、市長さんを中心として国家戦略特区があるということ、それに入ると勝山市の地域創生につながるということをみんなに伝えるべきである。これらを伝える方法として提案するとしたら、勝山市の広報や観光客が多く来るスキージャムでPR活動を行うことができると思う。しかし、それらを行うことについて、わたしの中で2つの問題点が出てくる。一つ目は、勝山市にそれらを提案したとしても、勝山市がその意見に賛成し市全体が盛り上がらないと意味がないということである。実際市役所の方にお聞きしたところ、勝山市にいろんな行事の提案やお知らせをしても盛り上がらないことがよくあるそうだ。イベント自体の魅力が伝わり切っていなかったことや高齢者だけ、若者だけなど年齢層が制限されるイベントだったりという問題があるのかもしれない。それをなくすためには、若者も高齢者も同じ場所で楽しめるイベントがあるとよいと思う。例えばお祭りである。一つのお祭りで今、若者に人気の食べ物を置いてみたり高齢者の方に団欒スペースを設置してみたりすると、一つのイベントで高齢者から若者まで来れるので、そういったイベントをどんどん企画すると勝山市全体が盛り上がるのではないかと考えた。二つ目は、勝山市が広報配布率100%なのに対して、今の若者は自分の市の広報を見る人が少ないということである。実際、わたしも自分から勝山市の広報を見ることは少ない。今はインスタグラムやHPでいろんな情報を簡単に見ることができる。だから、インスタグラムでの発信やHPへの掲載を活発に行い、勝山市のことをもっと知

ってもらわなければならない。それに加え、広報の見直しも一つの案としていいと思う。例えば、若い人や外国の人にも見てもらえるように、タイトルのひらがなで書かれている「かつやま」という字をローマ字にしてみたり、直感的に「おもしろそう」と感じるレイアウトに変えてみるとよい。この案は実際に埼玉県三次市で行ったことである。これをしたことにより読みやすさが評価され、広告収入が1.5倍にも上がったそうだ。たくさんの人に広報を読んでもらえるようになるいい機会であり、財政面においてもよくなると思う。勝山市で有名なそばを使って、全国の食フェスタに出してみたり、福井県でそばフェス開催の提案をしてみるとよいと思う。勝山市のそばの魅力を全力でPRして、農家の方の目に留まればもちろん、企業の方や市民の方にこのそばの原材料は何か、どうやって作られているのかについて興味も持ってもらえ、少しでも勝山市に足を運んでくれる人が増えると思う。

今の勝山市は農業において人手が減ってきており、農業を企業に頼もうという動きもあるとお聞きした。企業以外の方が農業を行えるために勝山市をまず広める方法として、私はこれらを提案したい。勝山市には水菜やメロンなど有名な農産物があるのでそれらを生かして勝山市独自の農業方法を探し見つけて実践して欲しい。そして、農業で多くの人に勝山市のよさを知って欲しい。

#### ○市長より

すばらしい。なかなかよく勉強している。国家戦略特区はすばらしいことだ。研究したけれど、なかなかアイデアが広がらず中断したというかつかかりがなかなかつかめなかった。確かに兵庫県養父市、すごく意欲的にやっているし、今提案があった農業やお祭りについて考えていることは検討して何とか実現したいと思う。よく勉強して、自分たちの役割もよく考えている。国家戦略特区については改めてもう1回、勝山市が生き残る方法を探してみようと思う。

イベントについて、確かに一生懸命考えてやっているのだけれども、市民、特に若い人向けにはどうかということをお問われると、みなさんの感覚と違うかもしれない。今日のような話を勝山市の観光のセッションと話をし、そういう機会を作る。市役所の組織にも刺激を与える必要がある。今までやってきたことを一生懸命まじめに考えてやっているのだけれど、ある範囲、範疇から抜け出せない。高校生のみなさん方の視点で考えるということは、大人が考えると言ってもなかなか感覚的に一緒になれないから、「自分たちはこうしたい」とか「こういうことなら参加できる」等の話をどんどんして欲しい。

#### ○商工観光・ふるさと創生課 北川昭彦課長より

イベントについては、今まさに今週から始まる。イベントについてはおっしゃる通りで、今までがお年寄り向けとか一般向けという話が多くて、若い人向けイベントという視点が抜けていたというのがわたしたちの考えである。今年からゆめおーれ勝山で夜は盆踊りをするが、12日にはインスタやARを使ったり、あるいはe-スポーツであったり、若者向けイベントを、市が考えたものではなく、「若者を呼びたい」「子供向けイベントを行いたい」という人を募集してその方々に考えてもらって実験的にやってみようと考えている。勝山高校のみなさんにもボランティアとして参加してもらえませんかということで各教室にちらしを貼らせてもらったが、みなさんお忙しいということで参加いただけなかったのだが、ボランティアでなくても構わないので、ゆめおーれの広場で若者向けのイベントをのぞきにきてもらいたい。逆に、ここでこのようなことを言っているということは、伝えること、PRが弱いということなので、インスタとか使って宣伝はしているのだけれど、どうすると若い人につながるのか、伝わっていくのか

を教えてほしいなあというところがある。どうすると今の高校生に知ってもらえたり効率よく情報を伝えられるのか、提案してもらえると参考にさせてもらいたい。

#### ○市長より

今の話に合ったように、ボランティア、お手伝いではなくて、君たちが主体的にできるコーナーとか全体的な枠組みの中にアイデアを入れるようにしたい。来年は高校生ではないけれど、高校生を含めた若者が自由に企画して自由にできるようなことができるといい。

#### ○商工観光・ふるさと創生課 北川昭彦課長より

昨年参加してくれた勝高生が今年大学生になっていて、この夏、手伝うために帰ってきてくれる。みなさんも大学へ行ったとしても、お盆に帰ってきてもらってのぞくなりしてほしい。企画についてはどうするといいか考えていきたい。

#### ○市長より

そばについては、発表を聞いていてやってみたいと思うのは、勝山のそばというのはみなさん食べてみてわかると思うが、とてもおいしい。全国それぞれの土地にそば自慢がいて、自分の土地のそばが一番おいしいと言っている。比較して食べることは少ないと思う。僕自身が勝山のそばが大好きで、非常に有名な長野の信州そばはおいしいという定評があったので、長野で食べてみたが、勝山のそばがやはり一番おいしいと思う。そういう意味で、勝山で全国のそば祭りとか、そばコンテストとか、そんなのをやったらおもしろい。そうしたら、実力日本一という評価が出てくるかもしれない。今評判なのは雪室そば。一か月ほど前まで勝山のお蕎麦屋さんが出していた。勝山では雪を貯蔵してそこに例えばお米とかそばとか野菜とかを入れておくとどうなるかを研究しているところがある。そこでそばを貯蔵しておいたところ、そば粉が練り上げてそばにしても、古いそばであるのだけれど新そばのような味がする、そういう効果がある。今、勝山の雪室そばとしてブランド化しようとしている。そばについても進化をしているので、全国的なイベントもできるかもしれない。

農業についても、中山間地という平野部でない山の中、盆地での農業は難しい。なぜかというと農業は今大規模化して、小さい田んぼを一つにして機械化し効率よくするという時代になっている。人の手が少なくて済むのと就農の効率化を図るためである。坂井平野ではできるけれども、勝山市ではできにくい。なぜかというと、田んぼに高低差があるから。高い田んぼに低い田んぼにこれを平面にならそうと思うと、平面の水準を一定にしなければならない。片方は掘る、片方はあげることになり、すごいお金もかかる。中山間地農業の悩みはそこだ。後継者もだんだんなくなるし、やりたい人でも後継者がいなくなると終わってしまう。そのための一つの解決策は特産化である。大規模なところではお米を作って、お米が一番メインの商品になる。勝山市はお米も作るが、ほかの農産物、例えば水菜であるとか最近野向町のエゴマもものすごく人気が出てきた。大規模な農業だけでなく、特産化と園芸農業などの小規模な農業でも、ほかから人が入ってきていっしょに農業を楽しむことやできたものをいっしょに食べるレストランを建設するとか、閉塞感のある農業だけれども、新しい手立てによって未来につなげることができることを考えてやっていきたいと思っている。

【提案4】 <勝山創生案～わてらの地方創生～> : 杉本隼飛 齋藤健人 細野邦彦

ぼくたちは、勝山の地方創生についてたくさん案を考えた。その中で地方創生とはどういうことなのかを考え直した。勝山を発展させたいとか商業施設とか娯楽施設を増やしてより住みやすい町にしたいとかいろいろあると一旦思ったが、ぼくたちは、今の勝山が好きだ。豊かな自然と優しい人々に囲まれて、これからも暮らしていきたい。こんなぼくたちが考えた地方創生は、自然環境をそのままに持続可能な社会を構築すること。そのために、移住者の獲得、自然を守ることに着目した。

移住者の獲得のために様々な改革を断行しよりよい町づくりをし、移住者を受け入れ態勢を整えることが重要である。その改革の一つとして、働き方改革が挙げられる。具体的には男女間の仕事量の均等化、有給休暇の全消費、女性をもっと役職に登用するなど改革が挙げられる。これらの改革を断行することで、市民は余暇を持つことができ、それは消費の増大や商業活動の活発化、QOL、クオリティオブライフの向上などが期待でき、住みよい町という新しい魅力を作ることができる。また、移住者をよぶ次の方法として、空き家の活用が挙げられる。勝山では現在、573件の空き家があり、これらを移住者、インターン生、体験移住者の受け入れをする。さらに、インターンシップ生や移住者への公的支援として、空き家の無料提供、空き家の修繕費一部もしくは全額負担、空き家を使った体験移住プランなどをする。このように移住者の負担を減らすことで、移住の後押しができると思う。

自然環境を守ることにについて。この場にいる多くの方は勝山で生まれ育ってきたと思う。みなさんにとってあたりまえであるこの勝山の自然環境はどれほど豊かなものであるか、四季に焦点を当てて、改めて見ていく。勝山の春といえば、やはり弁天桜。ほかには冬眠から覚めた熊、カエル、鶯などが活動する。夏は、葉が生い茂り、山も川も美しく、何よりクワガタがたくさん獲れる。秋は、山は紅葉で美しくなり、鈴虫やコオロギ、マツムシなどが美しい演奏を奏でる。そして冬は、勝山は日本でも有数の豪雪地帯で、スキージャンプがにぎわう。残念ながら虫は出てこない。このように、勝山の自然には大きな魅力があるということを知ってもらえると思う。これをみなさんに再認識してもらえれば、おのずと関心は深まっていくと思う。そうやって関心を持つことが有意義なことだと思う。また、自然に関する研究を大学などと共に進め、TwitterやYouTubeなどのSNSを用いて広く世に知らしめることも効果的である。もちろん、保全活動や勝山の植生マッチしている木々の植林なども重要である。勝山は本来夏緑照葉樹林に分類されているのだが、現在の勝山の優占種は杉である。しかし杉はツンドラ気候と言ってさらに寒いところの木なので外来種である。そもそもなぜそのような木が勝山市の優占種になっているかという過去に大規模な植林が行われたからであり、杉は成長も早く材木としても優秀なのだが、問題点は花粉症である。これ以上杉の植林をせずに、この勝山の植生にマッチしているコナラなどの木を植えたほうがよい。

勝山の自然と住みやすさを考え提案してきた。これらは実際に住んでみないとわからないことである。それをふまえてぼくたちのとるべき政策は、勝山の魅力について触れることのできる宿泊体験を僕たちの案としたい。それらは都会の喧騒から離れ暮らしたい人たちや子どもを健やかな環境や自然豊かな場所で育てたいという人を対象としたい。

勝山を構成する重要な要素を考えて、ぼくたちが提案したいのは、四季折々の特別な体験プランを提供することである。勝山にはたくさんの魅力があり一度にすべてを体験することはできない。なぜなら、ぼくたちが考えるこの町の魅力は四季折々の自然や町の風景、人の優しさなど一度にすべてを伝えることが困難なことこそ、その魅力があると思うからである。それらは近くで見る機会がないとわから



ないものである。一度ですべてを伝えられないなら分けて、特に、四季があるので4回に分けていねいにそれらをすべて伝えていくという作業も一つの案なのではないかと考えた。季節ごとの勝山の魅力について、季節限定体験移住プログラムを実施することにたどり着いた。通年を通して勝山の魅力を発信することができるし、そこに必ず市民との交流の場を設けることで、体験移住者は移住した後の勝山での生活や暮らしなどをイメージすることができる。さらに町の人の温かさもアピールすることができる。ここで提案する具体例は、夏の例である。まず、期間は4泊5日程度。少し長めの期間を考えるのは、夏は夏休み期間であり、家族連れだって旅行に行くこともあるが、それを考慮して少し長めの期間とした。大人の方も、長期休暇を取りやすいと考える。夏の勝山といえば、里山の魅力を生かした自然体験が一番目玉となるイベントだと思う。勝山の川は冷たく澄んでいてキャンプ場やバーベキュー場が近くにあることが多い。釣りのイベントをいっしょに行ったり、自然観察などの体験イベントで小さなお子様連れの家庭も引き付けることができると思う。また、勝山には夏が旬の食材があり、それらを使った郷土料理を楽しんでいただく。例えば、鮎、あまご、おろしそば、特に最近勝山の中でも話題になっているぼっかけなどが楽しめると思う。夏の花火大会や各町で行われている夏祭りなどの時期と合わせることで、より市民と近い目線で交流することができ、そのときに町の生活の実態などを詳しく市民から聞く場を移住者は得られると思う。この体験移住プログラムの中には移住者への行政説明を聞くプログラムを設けることで、勝山が移住者をどのように支援していくのかを説明することができる。勝山での生活のイメージを持つことができる。

移住者の獲得と自然を守る、この2点から最後に次のことを提案する。まず目標は100年後の変わらぬ自然、それがめあての移住者の獲得である。都市化をすれば確実に自然は減少してしまうのであって都市化は進めない。今まで述べたことや働き方改革などにより、美しき自然のほかに、住みやすいという魅力を作ること、SNSなどによる発信によって多くの人たちに見てもらえるように、登録者数が50万人ぐらいの中堅 YouTuber とコラボしてみるとよいと思う。ご清聴ありがとうございました。

#### ○市長より

ほんとに感心する。よく考えているしすごいアイデアだ。こういうアイデアをこういう場だけではなくて、実際にまちづくりをやっている人に聞いてもらう場を作る。勝山は今、観光で町の産業を興そうとしている。観光まちづくり会社は完全民間ではないけれど勝山市の行政の仕事ともつながっている。株式会社だから普通の会社と同じで、勝山市のために、またその会社のために、この会社をどんどん大きくしていきたい。その会社が大きくなるということは、社員が必要。働く意欲のある人に入ってもらって、自分のアイデアを実現することによって、その会社がどんどん成長していく。会社が成長するということは勝山市が観光という産業を確固たるものにしていくということにつながる。勝山のためにもなり自分のためにもなり勝山のイメージアップにもなる、君たちが就職などを考えるときに、君たちの意志にもよるけれども、そういう選択肢やチャンスがあるということを知っておいてほしい。観光まちづくり会社の人たちにも、機会を作るから、同じように発表してほしい。

今日聞いていて、涙が出るほどうれしいのは、「勝山が好き」ということ。自然が豊かであることなど勝山市の特質を移住してくる人に勝山市をアピールしなければいけないことが加わっているのもすばらしい。ぜひ、その話をみなさんのお父さんやお母さんにして、お父さんやお母さん教育をしてほしい。みなさんのお父さんやお母さんはどうかわからないが、大人の人たちは「勝山は大したことがない」とか

「雪が降るともうてなんな」とかそういう否定的な話が出てくる。これからの時代、物質万能すぎて都会が便利できらびやかで自分の欲しいものが何でも手に入る環境である物質文明の考え方から変化してきている。わたしたちの子どもころから成長期にかけては、都会へのあこがれがずっと根強くあった。都会へ出て頑張ろうという考え方がどんどん大きくなって、それを決して否定するわけではなく、成功した人たちもいる。勝山から出て行った動機が、「いやだから出て行った」「大きなものを求めて出て行った」などいろいろなパターンがある。ふるさと納税というのがある。ふるさと納税をしてくださる人で、「育った勝山市のよさが忘れられない」「こういったものがおいしかった。そういうものを送ってください」など、懐かしむだけでなく、ふるさとに恩を感じている人もたくさんいらっしゃって、それが非常にうれしい。さらに発展すれば、何回も勝山に来てもらって定住してもらうのが一番いいのだけれど、生活があるだろうから、定住はしてもらえないだろう。定住してもらえなくても、ある期間、夏やスキーの好きな人は冬の何日間かだけでも限定定住として帰ってきてもらうのもいいんじゃないかなと思う。そのようなプランもっている。みなさんの考えたプランとつながるかなと思う。とにかく、勝山の自然がすばらしいという思いを若い人たちが持っていることがたいへんうれしい。高度成長期の日本で育った若者にはなかった気持ちで、田舎はだめで都会はといという固定観念があった時代とは変わってきているということを感じた。非常にありがたいことだ。

#### 【提案5】 <もったな損防止対策：壺内美思 林 美里>

わたしたちの勝山創生案は、「もったな損防止政策」。「もったな損」とはどういう意味なのか、それについてから話をしていく。

勝山にある歴史をいかした有名な観光地と言え、ゆめおーれ勝山、恐竜博物館、平泉寺などがあり、一方で、勝山よりも面積が小さいベルギーの首都ブリュッセルと比較すると、面積は勝山より狭いが約80か所の歴史を生かした観光地がある。これをふまえて、よりよいまちづくりをするためにいくつか心得をあげる。その名がまさに「もったな損防止政策」である。勝山には、まだまだ知られざる歴史、隠された魅力がある。それなのに勝山は、土地はたくさんあるけれど、観光地は少ない。それをわたしたちは「もったな損」と命名した。もったな損防止のための政策をあげる。

勝山市は歴史の魅力を発掘しそれを磨き、形にする力が、ブリュッセルよりも劣っているように感じる。いいまちづくりのために、知られざる歴史や隠された魅力を見つける発掘力、それらをもっと深く探求する積極性、そして、それらを形にする実行力を備えていくことが必要である。これらをふまえて提案する、まず一つ目の創生案は、「歴史発掘ツアー」。勝山は先ほど挙げたように、ゆめおーれ勝山や恐竜博物館のように、歴史を生かした観光地が有名だが、まだまだ世間に多く知られていない歴史も数多くある。これらを十分に生かせる方法はないか、そして、生かした上でより観光客を集められないかを考えたうえで思いついたのが、「歴史発掘ツアー」である。このツアーでは、勝山の歴史観光地を時代に注目して分類し、タイムスリップをしているかのように観光客の方々に楽しんでもらう。例えば、恐竜博物館でいうと恐竜が生きていた中生代、ゆめおーれ勝山でいうと繊維業が最も栄えた明治時代。これらすべての歴史観光地には、その観光地の概要はもちろん、その時代に起きたほかの有名な出来事も記載してあるパネルのようなものも設置する。そうすることで、歴史により関心を深めてもらえると思う。さらに、その時代をコンセプトにした服装を用意しそれを着て記念写真が撮れるようにする。その写真をSNSにアップしてもらい拡散させることで、「ばえる町勝山」として観光客をより集めることができ、勝山の誇

るべき歴史観光地をいろんな人に知ってもらえると思う。(市長：何の町って言ったかな?) 最近インスタ映えという言葉があるので、「ばえる町勝山」。(市長：ばえるって映えるってこと? 誰が使うの?) 若者が。(市長：そうなの?) はい。ただ、これらの観光地はどうしても人気がある年齢層が偏る。例えば、平泉寺はどうしても子供に人気伝わりやすく、ここを訪れる年齢層はどうしても高くなってしまふ。そこで、子どもから大人まで楽しめるような体験コーナーを設けるとよいと思う。平泉寺は苔が有名で、苔寺にもなっている。また、苔は近年、外国人の方に人気であり、勝山の苔は京都の西芳寺と並ぶほどの美しさを誇る。外国の方には勝山の苔はよく知られているが、勝山市民はその魅力にあまり気付いていないように思う。そこでその苔を利用した体験を考えた。体験テーマは「コケテラリウムづくり」である。これは、「コケ」と「テラリウム」の造語で、ガラスなどの容器の中で植物を栽培する。誰でも手軽に緑を楽しむことのできる園芸として、近年人気を集めている。作り方は、容器の中に砂利や土などを入れて土台を作り、苔を入れて自分が好きなようにアレンジするだけである。とても簡単なので小さい子どもでも大人といっしょに楽しめる。そこで使う苔についてだが、平泉寺の苔を利用させてもらえるとよいと思う。少し苔をいただいて、それを育てて増殖させて体験に用いることができたならと思う。許可が取れるかどうかはわからないので実現の可能性は低い。実現できたら、平泉寺により人が訪れると思う。

(市長：それは平泉寺にとっても、培養した苔をもう一度戻して、苔が減退した場所を修復することにもつながる。) 苔を使ってもう一つ、創生案を提案する。勝山には平成32年度に道の駅が建設予定である。そこで、苔をモチーフにしたふりかけやかき氷、ケーキなどを販売するとよいのではないかと考えた。また、新たなイベントを作ると、さらに苔をアピールできるのではないかと考えた。例えば、苔をモチーフにした料理やスイーツを勝山の料理店で競う大会を行う。それを「クッキングコンテスト」ならぬ「コッキングコンテスト」と名付けた。毎年実施して、一位のグループは次の年のコッキングコンテストまで1年間常時販売できるようにする。このように隠れた魅力を発掘し積極的にアピールし様々なイベント実施することで、もったな損を防止できると思う。(市長：それは苔をテーマにした料理?) イメージしたとかの料理とかスイーツ。最近、観光施設であった平泉寺の白山亭が和風カフェに生まれ変わった。このカフェは主に苔をモチーフにしているそうだ。わたしたちのほかにも、苔の魅力を発掘した人がいる。

このような創生案を実施し、隠れた魅力を発掘し積極的にアピールし様々なイベントを実行することでもったな損を防止できるはずである。そして、全国からの観光客でにぎわう勝山市になると確信している。

#### ○市長より

すばらしい。すごく勉強になる。ブリュッセルと比較している。ブリュッセルのことはよく知らないけれど、観光に力を入れている都市だ。勝山について、観光地が少ないという表現があったけれど、県内はもとより全国でも一つの市にこれだけのものを持っているところはないと思う。あとは生かし方だ。安全性を持ってどういうふうにめぐってもらうかだ。そういう視点で今日も歴史発掘ツアーなどの提案があった。たいへんこれも素晴らしいと思う。このことについても、まちづくり会社に提案したいと思う。今日もまちづくり会社に来てもらうと一番良いのだがだれもいないから、みなさん出かけて行って、今日のこのプレゼンをする機会を作るので、ぜひ行ってほしい。

勝山の恐竜博物館、平泉寺、ゆめおーれ勝山、それと、縄文の三室遺跡、こういった話をしたところ、次のような話をした評論家がいる。「勝山市はタイムトラベルができるところだ。観光客はタイムトラベ

ラーだ。」今の提案を体系的にうまく組み合わせるとそれは決して夢ではない。一億年も二億年も前の恐竜から始まって、縄文遺跡、平泉寺、ゆめおーれと考えると、太古の時代から中世、近世、近代までたどることができておもしろい。それを一つの売り物にするための歴史発掘ツアー、いいと思う。

苔もいいアイデアだ。今苔ブームなんじゃないかな。確かに魅力がある。特に、都会の人たちはしっかりとした緑の苔を見ると心が落ち着くという報告が結構ある。平泉寺に歴史探遊館まほろぼという施設があって、その係の人が毎日毎日入ってこられる観光客の人の意見を聞いたり様子を観察したりして、わたしに報告してくれている。そこには、すべて素晴らしいという絶賛の声がある。「こんなところがあるとは知らなかった」とか「これだけ有名なのにこれだけしか人がいない」とか。わたしたちから見ればもう、10年、20年前の平泉寺と比べたらすごい人の多さだと思うけれど、観光客の人たちは京都とか奈良とかいう観光地を巡って雑踏を見てから平泉寺に来るものだから、こんないいところにこんなに人が少ないということが奇跡のようだという。その中で苔を見て、歴史をふりかえてみて、その良さというものがどんどん心の中に刻まれていく。ある人が言うには、霊験というか、霊を感じると、特別な力を持つ場所という印象を持つ人が多い。最近面白いのは、吉永小百合さんがポスターで撮った石段の場所に立つとすごくいいことが起きるといふ特別なスポットになっている。平泉寺は今、平泉寺の方々が作った六千坊という民間会社が観光振興を担っている。その人たちにも今日の話をしてもらえると、彼らにとってもアイデアをもらえるし、目からうろこのような感じで捉えてくれるのではないかと思う。紹介するので話をしてほしい。

一般的に、インスタ映えするものとかHPとかインターネットとか、新しいメディアに対する発信力が弱いことを感じる。どんどん取り入れていかなければいけない。

### 【高校生からの質問】

○先日勝山市議会議員選挙が行われた。わたしはまだ18歳ではないので選挙権はないのだけれど、16人いらっしゃる議員のみなさんは勝山を盛り上げるためにどのようなことをしているのかわからないので、教えていただきたい。

### ○市長より

市議会議員のことが知りたければ、議会の傍聴に来るのが一番良い。けれど、学校があるからそういう時間がない。いい方法が一つある。議員が質問したこと、そして、市長が答弁したことを記録した議事録というのがあって、議事録は借りることができるはずだ。公開もしているからそれを見てもらうのがよい。あなたたちの興味のあることがいっぱい書いてある。この議員はどのようなことを質問して何を主張しているか、それに対して市長はどう答えているか。

10年たったら、みなさんは人生で一番いい時期を迎える。勝山市をどうするかということに対する近道は、議員になること、そして、市長になること。ぜひ頑張って、市長になってほしい。これは決して冗談ではない。わたしは今市長という立場にいるけれど、みなさんと同じように心底勝山が大好き。大学は東京だったが、家業のこともあって帰らざるを得なかったが、決して東京に残りたいという気持ちはなかった。大学を卒業してすぐに勝山に帰ってきて趣味とかを楽しんでいた。趣味というと、野山を駆け回るのが大好きで、高校生の頃も勉強そっこのけでそのようなことばかりやっていたから、いわば受験戦争の中で落ちこぼれ状態になっていたこともあった。しかし、高校のときの成績で人生は左右されない。

何も心配することはない。大学を卒業して帰ってきて、仕事は仕事としてしっかりやり、海へ行ったり山へ行ったりスキーをしたり、スキーもワイルドな山へスキーをもって登って降りてきて、思い出の中には遭難騒ぎを起こして救助隊が出て発見された、そういうこともあった。それくらい勝山の生活を楽しんで今に至る。

勝山市は10年ごとに総合計画というのを作っている。この先10年間、どのような方針でどのような町を作っていくかということを経営計画に作り上げる。ちょうど今、第5次の総合計画が平成20年にできて30年で終わるというその節目で、次は令和元年から2年かけて第6次の計画を作る。市役所が勝手に作るのではなくて、市民のみなさん方の意見をいただきながら作り上げていくという計画である。全市民アンケートというのを出す。これは来年あたりに出す。いろいろなことが書いてあるので、みなさん、ぜひ意見を書いてほしい。多分一家に一つだから、お父さんお母さん方に行くかもしれないけれど、任せないで、自分はこうしたいということを書いてほしい。第3次総合計画というのを平成元年にやったとき、30年前、わたしが42、3歳のとき、そのときは市長でも議員でもなかったから、わたしは一般市民として、そのアンケートに答えた。たくさんの設問があつていろいろ書くのだけれど、最後に総合的にどうしたいか自由記述をする欄があつた。そこへわたしは、「これを実現するためにはわたしが市長になるしかない。」と書いた。無記名だから何でも書けるけれど、今考えると、実際そうになっている。思い入れが強いといつかは絶対に実現できる。決してあきらめないで、自分のやりたいことを設定して、どうしたらアプローチできるか考えながら、生きていってほしい。人生は楽しい。わたしたちは後しばらくで、とてもさみしいけれど、君たちはこれからの意のまま生きていくことができる。流されるのではなくて、自分は何がしたいか、勝山をどうしたいか、どう変えていきたいかなど、どんどんレベルを上げて、考えて、行動に移していってほしい。

今回、若い人が市会議員になってきた。年寄りばかりでは今日のようなアイデアは絶対出てこない。自分のことを考え、さらには若い人のことを考えた発言はしているけれども、若い人の気持ちは聞かなければわからない。自分たちが若いころを振り返ってどうだったといつても若い人の考え方にはなれないから、自分の気持ちを大事にして、がんばってほしい。今日は、ほんとうにありがとうございました。

冒頭お知らせしたけれど、12月に未来ワークショップをやる。非常に楽しみである。多分、千葉大学の倉坂先生もびっくりすると思う。大いに期待している。ぜひ頑張ってください。

#### 【教育長 終わりのあいさつ】

予定時間を20分もオーバーしてしまった。それくらい、中身の濃い市長と勝高生の語る会になった。改めて、校長先生はじめ指導していただいている先生方にお礼を申し上げる。

そして何よりも、生徒のみなさん、勝山に対する思いを感じた。最後、市長から期待とエールがあつた。精いっぱい応援したいと思う。高校最後の半年間、悔いのないように意義のある高校生活を送っていただきたい。本日は、ありがとうございました。